

課題

1. 現行の分析結果等のチェック基準のほかに必要な項目は存在するか？

- チェック基準はEurostatの経験則に基づき、科学的根拠は乏しいもの。本格運用に向け、調査データ毎の特徴を考慮した基準を検討

2. 世帯系調査にも集中度ルールを適用するのか？

- 集中度ルールは企業系調査のみに適用されるケースが多いが、世帯系調査にも適用するか

3. 集中度ルール及び二次秘匿の審査は計算負荷が高い

- 上記の審査において、目視確認は困難であり、自動秘匿ツール“t-ARGUS”の利用が望ましいが、個票データを読み込み、審査対象の集計表の再作成(再現)が必要になり、計算負荷が高い

4. 抽出率を考慮した度数閾値の適切な選択は可能か？

- 抽出率が下がるに従い、度数閾値を下げるのが合理的と思われるが、調査の特性に応じた度数閾値の採択を行うか

5. 専門家の判断が必要とされる基準は？

- どういうケースにおいて専門家パネルに諾否の判断を委ねるかという事例を蓄積し、平成30年1月～本格運用に向けた体制整備